# 保育者養成及び小学校教員養成課程在籍者の絵巻に対する認識

# Recognition for the picture scroll of preschool teacher training and primaryschool teacher training students

中　尾　泰　斗・木　下　　藍
Taito Nakao・Ai Kinoshita

## 1. はじめに

本研究は保育者及び小学校教員養成課程在籍者（以下、学生と記す）の絵巻に対する認識を明らかにするものである。

幼児の発達には、遊びや読み聞かせ等の多様な経験を経ることが重要である。その形態は、幼稚園教育要領や保育所保育指針にて限定されておらず、保育現場での選択の余地は多岐に渡って検討されることが望まれよう。

他方で、保育の後に接続する小学校過程では、学習指導要領国語編にみられる「伝統的な言語文化に関する指導の重視[1]」という項目を象徴的な記述として、様々な領域での古典教育の必要性が示されている。いうまでもなくこの点は筆者が専門とする図画工作領域にも該当し、我が国の伝統的文化への教育方法の拡充は鑑賞・制作ともに近年重視される傾向にある。

このような要件を横断的に履行するための選択肢に、我が国に古くから伝わる絵巻の形態がある。その用法は右から左に適宜広げ巻き取ることを繰り返して絵と詞書の内容を読み進めるものである。そして、今日遺る作例の中で広く一般にも認知される《鳥獣戯画》は現代の絵本や漫画、アニメーションの原型として認知されることもある。

ところが、我々が絵巻を目にする機会は美術館や博物館等で横長に広げた画面を鑑賞する場合が殆どである。しかし、それが制作された当初は人々の生活の中で本と同様に日常で使用されてきた背景がある。加えて、その形態を活かして表された吹抜屋台や異時同図法等、絵巻独自の特徴がある。

このように、伝統的な形態と表現を有する絵巻の文化財的認識と日本における絵本の原型、そして従来持っていた日常性や今日での体験の減少という点を踏まえると、絵巻には現在の美術品的位置づけの他に、その形態と表現の特徴を活用した保育や教育の充実のためのアクティブ・ラーニング的特徴を持った教具的価値を検討する余地がうまれる。

## 2. 先行研究

絵巻の教育的使用は、先に述べたような学習指導要領の項目に関連し、五十嵐（2000[2]）や古田（2009,2010,2011,2012[3]）に見られるような主に小学校以降の国語科、社会科をはじめとした教科教育の中で用いられ、題材にみる教材としての価値が認識されている。

このように教科における活用は多く報告されているが、その提供方法は部分的な複写を用いる方法や、コピーを繋ぎ合わせる方法が主だったものである。つまり、国語科や社会科においては授業の理解を促進させる資料としての側面が強調されているといえよう。

その中で、蛯名（2004[4]）のように美術科領域において鑑賞教育の一環として鳥獣戯画の原寸大モノタイプ印刷の絵巻を活用した実践も見られる。蛯名は複製品や模写の教育的価値に着目し、複製品を使用する意義を、実作品と対峙する前段階の教養を身に着けるため

と指摘している。また、実寸大の模本を用いる効果に関しては同一の寸法と尺度による美的バランスの再現と実現が成される点を見出している。

しかし保育領域を含めた初等教育では、高橋（1961[5]）が日本の文化的側面を有した児童文化財の必要性を指摘しながらもその後の実践が未だ少ない。

その中で、最近では木下・中尾（2017[6]）は絵本とは異なる絵巻の正規の用法の独自性に注目し、幼稚園にて《鳥獣戯画》の原寸大複製を用いた実践を行っている。その実践では絵巻の特徴的な表現である①紙芝居やアニメーションのシーンや頁とは異なる、全体が途切れることのない一連の流れ、②異時同図や吹き抜け屋台等の表現という2点から、絵巻を絵本や紙芝居と同列の、それ固有の特徴を持った児童文化財という位置づけを試み、その幼児への受容を明らかにしている。

児童文化財の研究は近年、プロジェクターやテレビなどの光学機器を用いた実践が多くみられる[7]。しかしその一方で、幼児の成長において恒常的に重要視されるバーバル・ノンバーバルコミュニケーションの効果は看過できない。木下・中尾の実践はこのような観点からの保育の発展を目指したものと認識できる。

## 3. 問題点の所在

上述した先行研究からは、今日の絵巻の教育的使用が、教科教育と関連した実践から成り立っていることがわかる。しかし初等・就学前教育でそれらは未だ発展していない感がある。

そして、その領域にて絵巻が先に述べた使用目的に立脚するには、援助者と指導者の存在が欠かせない。つまり保育者や教師自身が現場で自立して使用できる教具であることを前提に、その活用法が検討できるのである。

このような点から現場における絵巻の活用には、先に示した木下・中尾論文の観点と共に保育者および教員に対する知識と実践力を身に着けるための教育の充実が課題として残る。

今日の保育士及び小学校教員養成課程における造形と図画工作の授業を振り返ると、その一連では0歳から12歳までの対象年齢の制作活動の追体験を通した指導法や援助法を学ぶ機会はあっても、日本美術に関連した講義や演習が僅少な感は否めない。つまり先に述べた課題である専門的に文化財の取り扱いやそれにまつわる表現や題材を学ぶ機会は学生にとって少ないと考えられる。

そして、そもそもその学びの観点を検討するための、学生の文化財への認識の実態が明らかにされていないという状況がある。

## 4. 本稿の目的

上記を踏まえると、本研究を展開させるにあたって、保育者や養成校在籍者が絵巻や日本文化に対して如何なる認識を持っているかという領域への認知の実態を把握する必要がある。

そこで本稿は学生に対して行った絵巻に関する質問紙調査の回答をまとめ、その内容を検討する。

## 5. 調査の方法

本稿では保育者及び小学校教員養成課程に在籍する学生310名を対象に調査を行った。

調査で使用した質問紙は、設問1、2、4、11は選択、それ以外は自由記述の方式を採った。

### 5-1. 質問紙の内容

1）絵巻（絵巻物、巻物、巻子とも呼ばれる）を知っていますか？
2）絵巻を見たことがありますか？
3）1）知っている、2）ある、と答えた方はそのタイトルは何でしたか？見た場所はどこですか？
4）実際に絵巻を使ったことがありますか？
5）絵巻とは何に使うものだと思いますか？
6）絵巻の外見や見た目、形態の特徴は何だと思いますか？
7）6）の理由や効果はどういうものだと思いますか？
8）絵巻にはどういった絵が描かれていると思いますか？
9）8）の特徴的な表現はどのようなものがあると思いますか？
10）9）で記した表現の効果や意味は何だと思いますか？

11）これまで、学校（幼稚園等～大学）で絵巻に関する学習をしたことがありますか？

12）11）にて、あると答えた方はどのような学習でしたか？

## 6. 結果と考察

本稿で行った質問紙調査の結果と考察を以下の４点からまとめる。

### 6-1. 使用と認知の実態

設問１から４からは、学生の絵巻への認知度と日常での関りの実態が示された。

表１と表２からは、多くの学生が絵巻という名称や存在を認めてはいるが、その実見の経験が少ないことがわかる。それは、表3、表４に示すように、今日の主な実見の場である美術館や博物館での絵巻との邂逅があるものの、日常の中に位置する学校の教科書やテレビ番組をはじめとするメディアの情報から得た印象が強いことが一因といえよう。つまり学生には、実体験を伴った認識が薄いといえる。

このような認知度にある絵巻の使用目的を問いとした設問５では、表５に示すように多様な傾向が見られた。その中で多く回答されたものは傾向２と傾向３のような意思伝達手段としての用途や、過去の出来事の記録物という用途であった。その背景は、先に示したように社会科をはじめとした教科書とメディアから得られた認識に準拠したものであろう。

しかし、そのような中でも傾向1、4、5では、鑑賞物や教具、絵本に関連する回答もみられた。このような認識の源泉は定かではないが、絵巻の美術品的位置づけや教育的価値を認めているものとして注目できる。

**表 1. 設問 1）の回答**

| 知っている | 知らない | 無回答 |
|---|---|---|
| 221 | 85 | 4 |

**表 2. 設問 2）の回答**

| ある | ない | 無回答 |
|---|---|---|
| 83 | 226 | 1 |

**表 3 設問 3）の回答**

| | 傾向 | 具体的な場所、物 | 記載数 |
|---|---|---|---|
| 1 | 学校・教科書 | 小学校 | 2 |
| | | 社会科 | 11 |
| | | 美術 | 6 |
| | | 中学校の修学旅行の思い出として作った | 1 |
| 2 | 美術館　博物館　展覧会 | 静岡県立美術館 | 2 |
| | | 資料館 | 2 |
| | | ツタンカーメン展 | 1 |
| | | 美術館, 博物館 | 6 |
| | | 博物館 | 10 |
| | | 九州国立博物館 | 1 |
| 3 | テレビ | 子供番組 | 1 |
| | | 時代劇 | 2 |
| | | 古美術鑑定番組 | 3 |
| | | タイトル不明 | 10 |
| 4 | 城 | 大阪城 | 1 |
| | | 名古屋城 | 1 |
| 5 | その他 | 図書室 | 1 |
| | | 絵本の中 | 1 |
| | | 家 | 2 |
| 6 | 不明 | 無記、覚えていない | 20 |

**表 4 設問 4）の回答**

| ある | ない | 無回答 |
|---|---|---|
| 9 | 298 | 3 |

**表 5. 設問 5）の回答**

| | 傾向 | アンケートの回答 |
|---|---|---|
| 1 | 鑑賞物 | 絵をかいて飾る　今でいうポスター<br>娯楽・楽しむため　見て楽しむもの<br>飾る・読む・見る　絵をパッと見れる<br>ストーリー全体が見える　偉い人に見せる<br>鑑賞する　絵を巻く　壁や部屋に飾る<br>絵だけでなく文字も書きやすい<br>一瞬で長いストーリーが分かる |
| 2 | 意思伝達手段 | 誰かへのメッセージ　ルール約束事を書く<br>文章を分かりやすく伝える　感動を与える<br>文章で大切なことを書く　思いを伝える<br>昔の偉い人への伝達手段　挑戦状<br>気持ち・人などの状況を残す<br>手紙・何かを伝達するための手段 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 絵を付けることでより分かりやすくする<br>自分の知っている情報やものを教える<br>特定の人だけが中身を知れる |
| 3 | 過去の記録，回想 | 歴史や出来事を書く　絵を記録にしておく<br>時代ごとに歴史を伝える　歴史を後世に残す<br>お寺で伝統を伝えていく　昔の話を伝える<br>お寺で伝統を伝えていく　思い出をかく<br>昔の戦の絵として記録したもの　年表を書く<br>様子などを横向きで描いてある<br>記録　日記　メモ　代々伝えていく |
| 4 | 絵本的なもの | 絵本みたいなもの　物語を伝える<br>物語を見る、書く　絵本の絵巻バージョン<br>本・文章を書く　昔の人が物語を書く<br>昔の絵本　読書　漫画　ストーリー |
| 5 | 風景・地図 | 地図　忍者が地図にする　宝の地図<br>スケッチ　景色を残す　風景 |
| 6 | 教具 | 社会科の授業　子どもにお話しするもの<br>子どもに日本の絵を見せる |
| 7 | 贈答物 | 誰かにあげるもの　プレゼント<br>人に渡したりする |
| 8 | その他 | 言葉をつかわず皮肉を言う<br>日本の伝統工芸のような印象<br>折り曲げずに運ぶもの<br>人間を動物にして話す　忍者が使うかも<br>時代劇の小道具　自己紹介　秘密にするもの |

### 6-2. 形態への認識

設問６と設問７の回答からは、巻く、筒状、長いといった絵巻独自の形態の特徴が、収納・運搬性や機密性、記載容量の豊富さを目的としたものとして認知されていることがわかる。

またその他、興味や高揚感を引き出すという回答も見受けられた。この点は、絵巻を用いる際の動作性に起因したものであると考えられよう。

この項目では、形態の他に内容や素材の見た目に注目した回答もあった。特に毛筆や和紙の使用と、それに関係する水墨の表現に注目した回答が多くみられた。しかし、絵巻は彩色を施した作例も多く遺る。調査から得られたこのような印象は、和風な絵画という認識を水墨画と直結させ、それがさらに同領域内にある絵巻へと流用されたことから発生しているものと捉えられる。

以上のような回答が出た中で、その効果や理由が無記入な場合も多くあった。そこには形態の視覚的な特徴は想像できるが、使用にあたっての目的や意義への理解の不足が垣間見える。

**表 6. 設問 6）及び設問 7）の回答の対応表**

| | | 見た目、形態の特徴への認識 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 巻いている | 筒状 | 長い | 古い | 水墨・毛筆の使用 | 金銭的価値 | 縦書き | 和紙の使用 |
| 効果や理由への理解 | 運搬のしやすさ、 | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | コンパクト、収納の利便性 | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | 内容の隠匿性、秘密保持 | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | 展観法の順序がわかる | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | 長文、長い絵が描ける | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | |
| | 興味付け、高揚感 | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | 保存性　空気に触れない | ○ | | | | | | | |
| | 汚損、色落ちの防止 | ○ | ○ | | | | | | |
| | 動作の楽しさ | ○ | | | | | | | |
| | 本との差別化 | ○ | | | | | | | |
| | 経年経過の雰囲気を感じさせる | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| | 和風な印象を与える | | ○ | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 心を穏やかにする | | | ○ | | | | | |
| | 山、川、海をリアルに表現する | | | ○ | | | | | |
| | 多人数で鑑賞できる | | | | | | | | |
| | 読み易さ | | | | | | | | |
| | 時系列付け | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | 展開への期待 | ○ | | ○ | | | | | |
| | 過去の出来事の現代への伝承 | | | | ○ | ○ | | | |
| | 迫力を出す | | | | | ○ | | | |
| | 癒しの効果 | | | | | ○ | | | |
| | かっこよさ | | | | | ○ | | | |
| | 草書解読への興味 | | | | | ○ | | | |
| | 貴族の娯楽 | | | | | ○ | | | |
| | 高価そう | | | | | | ○ | | |
| | 文の量を調節できる | | | | | | | ○ | |
| | 一目で情報がわかる | | ○ | ○ | | | | | |
| | 効果無記入 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

### 6-3. 内容への認識

画題や絵画の内容、表現の効果について回答を求めた設問8、設問9及び設問10からは、花鳥風月や龍虎、月並絵等の日本絵画に頻出する画題の印象と関連づけた回答が多くみられた（表7）。その中で、一般に広く知られる、源氏物語や鳥獣戯画といった具体的な作例の回答もあった。

即ちこのような点からは、絵巻が和風なものとして学生に認識されていることが明瞭となる。それは先に示した形態とその効果からも認められたが、この結果から画題の点からの日本文化への印象の接続が円滑に行われていたと捉えられる。

表現の特徴に関しては、具体的な回答が描法の側面と絵画の印象に終始した感がある。その中で、傾向4にて「かぎばな」というやまと絵の特徴を記した回答もあった。しかし、その表現の意味への理解は、回答者の感覚的なものにとどまった。

このように設問8から設問10を通した調査では、絵巻を印象付ける特徴的な表現である吹き抜け屋台や異時同図等を示した回答は少ないという結果となった。そして、画題とその意味や特徴との接続が不十分であったことが浮き彫りとなった。

**表7. 設問8)、設問9)、設問10）の回答のまとめ**

| | 傾向 | 回答 | 表現の特徴 | 表現の意味 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 動物 | 動物 | 色々な動物が喧嘩をしていたり一緒に遊んでいる<br>筆と墨で描かれている<br>強さを表す | 友達とは仲良くする<br>風流、趣が出る、力強い　味がある　躍動感<br>無記入 |
| | | 虎 | 強い　威嚇　勢い<br>表情が細かい | 富の象徴　怖さ<br>迫力が増す |
| | | 龍 | 表情が細かい<br>図柄が怖そう<br>昔な感じ<br>筆で書いてある | 迫力が増す<br>強く見せるため　危機の文章が書いてあるなと思う<br>無記入<br>怖そう　神話を伝える |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ウサギ | かわいくない<br>筆で書いてある | 独特<br>無記入 |
| | | 鬼 | 鬼を退治するところを絵具で描いている | 歴史を表すため |
| | | 擬人化した動物 | 無記入 | 分かりづらくし、遠回しに伝えるいろんな解釈ができる |
| | | 亀 | 筆で書いてある | 無記入 |
| | | 妖怪 猫 鯉<br>馬 鳥獣 蛙 | 無記入 | 無記入 |
| 2 | 人物・風俗 | 暮らしの風景 | 催事等<br>日常やその時代背景を表している<br>動きがある<br>白黒で描かれる | 伝承 記録<br>現代の人に伝える そのまま伝わる<br>無記入<br>一目で見られる |
| | | 人物 | 筆で書かれる 細い線で書いてある<br>時間の流れが表現されている、同じ人物が二人描かれている<br>服<br>リアル、細かい 目細い、顔長い、和服 | 躍動感 昔に作られたものだから<br>漫画のように、絵で理解することができる 一枚で話が分かる<br>時代を感じる<br>当時の美人 見た人が楽しめるように |
| | | 江戸の街並み | 水彩絵具 | ぼかし |
| | | 武士 昔の行事<br>紫式部みたいな<br>女の人 | 無記入 | 無記入 |
| 3 | 地図 | 地図 | 目印がある<br>曲がり道 上から見た地図<br>縦長の地図も横長の地図もできる<br>他からの場所 | 一目で理解できる<br>全体が見える<br>その土地にあったものが作れる<br>無記入 |
| 4 | 歴史的 | 昔の絵<br>古風な絵 | 油絵具や彫刻<br>風景や人物<br>雷などの現象が鬼などで描かれる。<br>鬼や神様等、実際にはみられないものも描かれる<br>動物とか花とか<br>きれい<br>すいぼく画<br>和風<br>昔の絵、伝わりづらい<br>筆で書いてあるっぽい<br>縦書き水彩で描かれているイメージ | 古い感じを表すため<br>和む<br>無記入<br>無記入<br>きれい<br>古風的に感じさせるため<br>子どもにみせる<br>昔を知る<br>物語を知ってもらう<br>昔に親しむ 昔のことを伝える<br>読みやすくする 少しずつ見えるようにするため |
| | | 平安時代のような絵 | 墨で書かれていて色がついてない | 心が鎮まる |
| | | 戦 | 全部墨と筆で描かれている<br>人に関すること | 風流、趣が出る<br>活躍をわかりやすく記す |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | かぎばなの人<br>戦っている姿 | 見やすい<br>絵の方が伝わりやすい |
| | | 事件や出来事 | 無記入 | 無記入 |
| | | 時代の流れ | 筆で書いている | 筆で書いている |
| 5 | 自然 | 風景、景勝地 | 全部墨で描かれている　モノクロ<br>山、海、花<br>水彩画<br>無記入 | 風流、趣が出る　色少ないからわかりやすい<br>目で見た風景を広い範囲に描く<br>無記入<br>周知 |
| | | 富士山 | 絵が細かい色遣い | 興味を持たせる |
| | | 山　川　海 | 探検<br>水墨画<br>リアル、細かい | 無記入<br>無記入<br>見た人が楽しめるように |
| | | 自然災害 | 無記入 | 無記入 |
| | | 花、植物 | 色<br>墨で描かれている | 見やすくする<br>和を出している |
| | | 竹　滝 | 筆で、流れるように | 爽快 |
| | | 松 | 無記入 | 無記入 |
| 6 | 内容 | 昔話 | きれい | 女性や男性などをきれいに表現するため |
| | | 俳句 | 無記入 | 無記入 |
| | | 物語 | 人が多い<br>江戸時代<br>縦書き　長い絵 | 途切れず分かりやすく伝える　行動がわかりやすい<br>全部広げなくても少しずつ文章が読める<br>わかりやすい |
| | | 源氏物語 | 昔っぽい<br>人がたくさんいる中に、ぽつりと源氏がいる | 昔っぽさが感じられる<br>そのままの情景を描いている |
| | | 鳥獣戯画 | 筆で書く | 筆独特の曲線的な絵が描ける |
| 7 | その他 | 家系図 | 一見して家系が分かる | すぐにわかる |
| | | 年表 | 無記入 | 無記入 |
| | | 暗号 | 無記入 | みられてもすぐにはわからない |
| | | 手裏剣 | 忍者らしい | 無記入 |
| | | 文字 | 筆で書く | 優しくなる |
| | | 残したいもの | 無記入 | 後世につたえる |
| | | 花柄 | きれいに見せる | 読む人が気持ち華やぐ |
| | | 伝統芸能 | 分かりやすく | 分かりやすく |

### 6-4. 学習環境の実際

ここまでの認識を踏まえて、設問11と12では学校教育における絵巻に関する体験の有無を調べた。その結果、表8にあるように多くの学生はこれまで学校にて絵巻に関しての学習を経ていないことが明らかになった。このことと先までに示した項目との関係を鑑みると、現状の学校教育における単元では教科書等に絵巻の存在が記載、掲載されながらも、その効果的な定着が成されていないことが示唆される。

また、学習を経たと回答した学生の内容を表9にまとめると、それは国語と社会科に多く集中し、その目的が言語や文学領域と歴史の領域であることがわかる。

これらは、先行研究をはじめとした実践が浸透して

いることの証左ともいえようが、一方で絵巻のもう一つの側面である美術領域での学習は僅少であった。それは、美術に焦点を当てた活動が、教育者にとって先の２領域と比較してより専門的に図像と表現、形態の使用法などの知見を要するためであろう。

**表 8. 設問 11）の回答**

| ある | ない | 無回答 |
|---|---|---|
| 34 | 268 | 8 |

**表 9. 設問 12）の回答**

| | 教科 | 単元や学習の内容 |
|---|---|---|
| 1 | 国語 | 古典　漢文　古文 |
| 2 | 社会 | 歴史　日本史 |
| 3 | 美術・図工 | 名前と作家名 |
| 4 | 教科不明 | 修学旅行の思い出を絵巻に描く授業　教科書の中　絵巻を見て自分で作る　忍者ごっこ |
| 5 | 無記入 | |

### 6-5. 結果と考察のまとめ

本稿では、認知と経験、形態とその効果、画題と表現、これまでの学習の実際という４つの観点から項目を設定した。

養成課程在籍者における絵巻の認識の実態は、今日のメディアや学校教育の効果によって一定の認知度があった。しかし、その実際は、古さという印象を中心に、手紙をはじめとした記録物的な使用目的として認知されている傾向が多かった。

そして、この捉え方の中に経巻等の文字情報のみで構成されている教本との混同があったことは否めない。また、掛け軸や屏風等別形態の絵画との明確な識別が成されていたかについては今回の回答の結果を通観すると検討の余地があるものとなった。

このような結果からは、日本美術や絵巻の正確な情報を美術の専門以外の当該教育機関や教育活動の現場にて共有する必要性が改めて浮き彫りとなった。

## 7. おわりに

幼保小連携が意識される昨今、我が国の伝統的文化に関わる事項への円滑な導入は、今後より検討が求められるとなる課題であろう。そのため、本稿で行ったような文化財の機器の使用法や表現の理解に関する小学校教員や保育者への教育は今後さらに必要とされることが予測される。そのため今後は本稿の結果を踏まえて、その改善策の検討と教育現場への浸透法を模索していきたい。

本調査の反省点として、被験者と筆者の間の語句の意味に対する共通理解が不足していた感が否めない。その点については今後、美術領域外の初学者にも認識できる専門的な語句の用い方を検討し、内容の改善に努めたい。

## 註

1　文部科学省『小学校学習指導要領解説　国語』東洋館出版、2008 年、7 頁
2　五十嵐誓「絵巻物の物語性に着目した小学校歴史学習の展開 -『蒙古襲来絵詞』を用いた実践をもとに -」『社会科教育研究』83 号、日本社会科教育学会、2000 年
3　古田雅憲は「「彦火々出見尊絵巻」図像私註（一）―幼児・低学年児童の古典学習材として再構成するために―」（『西南学院大学人間科学論集 5 巻 1 号』西南学院大学、2009 年）から「「彦火々出見尊絵巻」図像私註（六／完）－幼児・低学年児童の古典学習材として再構成するために－」（『西南学院大学人間科学論集 7 巻 2 号』西南学院大学、2012 年）にて、古典絵画を用いた国語教育の実践を報告している。
4　蝦名敦子「鑑賞教育における複製や模写の問題 - 日本画の授業実践をケース・スタディとして」『美術教育学』25 号、美術科教育学会、2004 年
5　高橋さやか「日本の文化財と幼児教育」『幼児の教育』60 号、日本幼稚園協会、1961 年、20 頁
6　木下藍・中尾泰斗「幼児を対象とした絵巻の体験における有効性と問題点の検討」『常葉大学短期大学部紀要』48 号、常葉大学短期大学部、2017 年
7「デジタル紙芝居」：保育現場へのマルチメディア導入」『情報処理学会研究報告情報システムと社会環境』84 号、情報処理学会、2001 年

### 図版典拠

表 1-9　筆者作成